

藤岡由夫 ふじおか ゆきお 物理學者、理學博士。明治二十六年二月六日東京生れ、昭和五十一年二月十二日歿（一九〇三—七六）。父は國文學者藤岡作太郎。大正十四年東京帝國大學理學部物理學科卒。理化學研究所に入り、歐洲留學後、昭和十六年東京文理科大学教授、二十五年東京教育大學光學研究所所長。うち日本學術會議原子力問題委員会委員長、埼玉大學學長、山梨大學學長、日本分光學會初代會長等歴任。

著書「ラムン効果」（昭和十一年十一月、二十日岩波書店）「科學文獻抄」）、『現代の物理學』（昭和十二年十二月十六日、増補版・二十四年六月五日岩波書店）、『物理學ノート』（昭和十七年五月十八日、うち全二冊Ⅰ・Ⅱ、二十一年四月二十日、Ⅱ・二十日河出書房）、『二十世紀思想の展望』（合著・小石川書房編集部編、昭和二十四年一月二十五日、再刊・二十六年二月十日小石川書房）、『隨想湯川秀樹』（合著、昭和二十五年十一月十日甲文社）、『藤岡東園治徳録』（編、昭和二十七年十二月一日有朋）、『科學者と人生』（昭和二十九年十一月二十日講談社）等。